

温室効果ガス世界資料センター

温室効果ガス世界資料センター おんしつこうかがすせかいしりょうせんたー

温室効果ガス世界資料センター（WDCGG）は、世界気象機関（WMO）の全球大気監視（GAW）計画の下に1990年10月に気象庁に設立され、大気中や海洋で測定された温室効果ガス（CO₂、CH₄、CFCs、N₂O、地上オゾンなど）と関連するガス（CO、NO_x、SO₂、VOCなど）のデータを収集、管理、提供している。二酸化炭素濃度の観測は、南極点では1957年から、ハワイのマウナロアでは1958年から、また綾里では1987年からそれぞれ観測が開始された。南極点やマウナロアで観測が開始された当時、大気中の二酸化炭素濃度はおよそ315ppmであったが、その後年々増加しWDCGGの解析による1998年の全球平均濃度は365.9ppmとなっている。現在の濃度は産業革命（18世紀後半）以前の平均的な値である280ppmに比べて31%増加している。

<登録年月>
2005年08月
